

エス・ディー・ジーズ

# SDGs

## いたばし ネットワーク ニュース



発行：SDGsいたばしネットワーク

発行日：2021年6月1日

※SDGs：「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略。国連サミットで採択された、2016年から2030年までの国連目標です。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として置き去りにしないことを誓っています。

## もくじ 「特定非営利活動法人SDGsいたばしネットワーク」設立へ！

「特定非営利活動法人SDGsいたばしネットワーク」設立趣旨 … 2

SDGsいたばしネットワーク事業計画 … 3

特集「設立記念フォーラム開催」… 4

6ブロックの活動と目標 … 5

進行中課題プロジェクト紹介(保健・福祉・医療関係) … 6

地域で進める“みんなの学びの広場・2030”キックオフフォーラム … 7

「すごいぞ！ 上板橋第二中学校9年生。SDGs授業参加報告」… 7

掲示板、お知らせ、ボランティア募集 … 8

3月7日（日）10時から成増生涯学習センターで開催した設立総会。  
新型コロナウイルス感染防止対策をして実施しました。



設立総会后、「記念フォーラム」を開催しました。



- S すべての板橋区民は
- D “誰も置き去りにしない・させない”を目標に
- G 具体的な自分ごととして行動します。
- s さあ！つながろうSDGs

## □特定非営利活動法人SDGsいたばしネットワーク設立趣旨

SDGs いたばしネットワークは国連発 SDGs(持続可能な開発目標)の理念に賛同し、2019年3月23日、176団体616名の参加のもと「SDGs いたばしの集い」を開催致しました。

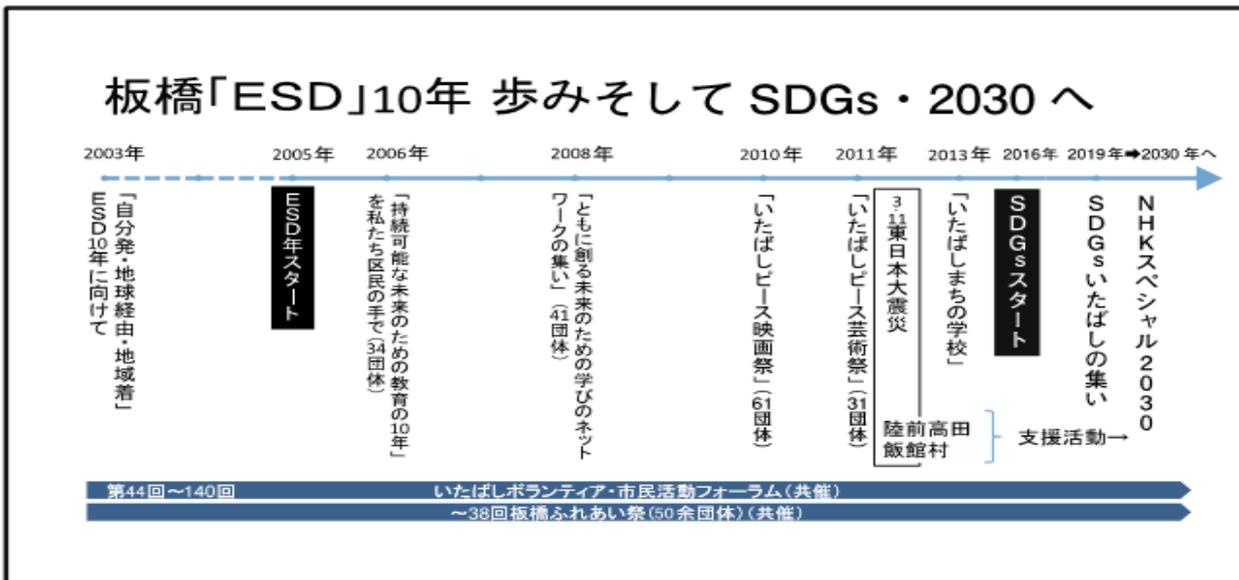
この時「いたばし宣言2019」を全員一致で採択し、これを活動指針として6ブロックでの課題解決に向けた地域活動、課題別プロジェクトの開始、ニュースやパンフレットの発行、歌や劇による表現活動、2019、2020年と続けて「いたばし産業見本市」へ出展など、多彩な活動を展開して参りました。

ところが、2019年末に発見された新型コロナウイルスは、あっという間に世界の脅威となり、私たちの生活は大きく様変わりしました。このままだと日常生活が制限され経済活動も停滞を続け、“誰もが生き生きと暮らし続ける社会”は遠のき、SDGsの基本理念である“互いに助け合える地域社会”に戻れません。

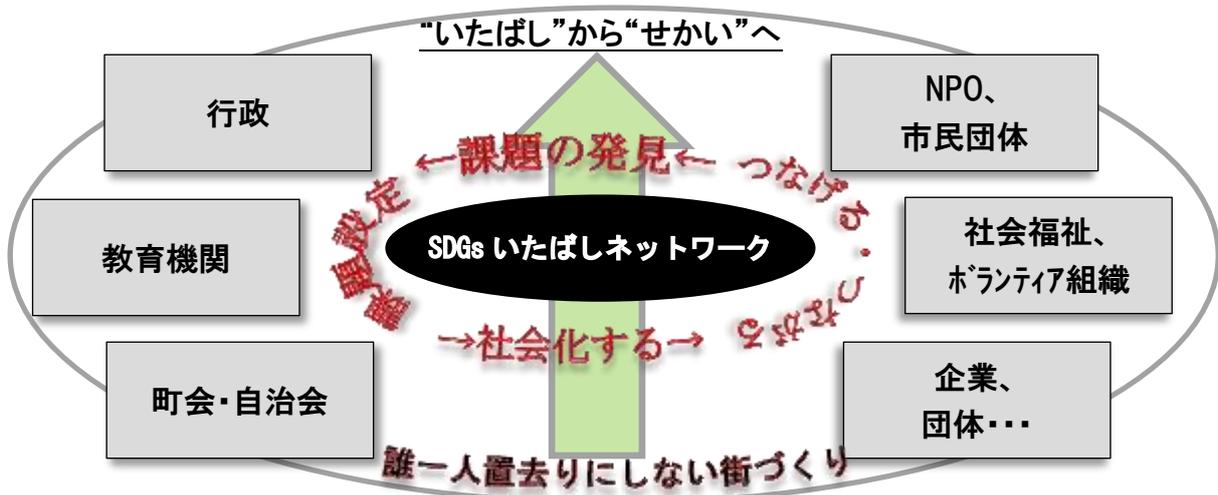
そこでSDGs いたばしネットワークは、しっかりと地域に根付いて活動していくため組織・運営基盤を固め「特定非営利活動法人SDGs いたばしネットワーク」として新たにスタートすることと致します。

いたばしをベースに行政と連動し、各種の活動機関・団体・組織・企業そして身近な町会・自治会とも連携し“誰も置き去りにしない・させない”共生社会の実現に積極的に取り組んで参ります。

2021年5月吉日 SDGs いたばしネットワーク代表 加藤勉



## □SDGs いたばしネットワークの位置づけ



## □SDGsいたばしネットワークの事業計画

2019年6月にSDGsいたばしネットワークの目指す方向性を決め、以下の様な事業計画を策定しました。この計画に従い毎年具体的な取り組みを行っています。

### 「SDGs誰も置き去りにしない」いたばし2030事業計画



テーマ	活動	現在の取り組み
①地域ブロック毎推進活動	板橋区内各 <u>地域の実態に沿った課題</u> を取上げ、多様な主体と協力しながら「共生社会」の実現を目指す	区内を6ブロックに分け活動を展開、ブロックはそれぞれ異なったテーマであるが、情報を共有し協力し推進中 →5ページ参照
②課題別推進プロジェクト活動	地域や人、環境に関わらず <u>広範囲な課題</u> に対しプロジェクトを立上げ多種多様なネットワークと連携しながら解決を目指す	保健・福祉・医療分野のプロジェクトを進行中、「新たな”福祉事業”のあり方を提案にまとめた。また表現活動として”かるた”を作成 →7ページ参照
③SDGs いたばし研究所	課題についての <u>実態調査から原因の深掘り</u> を行い、改善の手掛かりを探る。また類似課題の事前予知なども目指す	「誰一人置き去りにしない」の視点で ”置き去りにされている実態”の研究を深める。課題プロジェクトの活動と連携し検討中
④全体活動	SDGsいたばしネットワークの <u>活動全体を推進</u> していくためのシンポジウムやセミナーの開催などを行う	NHKスペシャル「未来への分岐点」(3回シリーズ)をビデオと講演、意見交換を合わせたシンポジウムを各ブロックで計画中 →8ページ参照、
⑤広報活動	SDGsいたばしネットワークの活動を幅広く、また身近な存在として知ってもらうため、きめ細かく優しい <u>情報発信</u> を行う	年2回のニュース発行やパンフレットを作成配布 ホームページ、SMSでの情報発信を検討中 →このニュースはNo. 4

## □特集「設立記念フォーラム開催」

3月7日(日)の午前中に開催された SDGsいたばしネットワーク設立総会の後、午後に記念フォーラムが開催されました。その内容について報告します。

### (1)「全国から見た板橋の取組み」 SDGs 市民ネットワーク事務局長 新田 英理子氏

- ①一般社団法人 SDGs 市民社会ネットワーク(略称:SDGs ジャパン)は、持続可能な世界の実現を目指し 2016 年に設立された日本の CSO (市民社会組織)・NGO(非政府組織)・NPO(特定非営利活動法人)のネットワーク組織です。(2017年2月法人格取得)

「誰一人取り残さない」という SDGs の理念に則り、すべての人が人間として尊厳をもって生きることのできる社会の実現のために、市民社会の立場から、民間企業や自治体、国際機関、政府、他国の市民社会組織と連携した、政策提言活動や課題解決のためのコンサルティングなどに努めています。

- ②世界の SDGs達成度ランキング(2020年版)で166ヶ国中日本は17位(1位スウェーデン) 日本の最大の課題は、5(ジェンダー平等)、13(気象変動)、14(海の豊かさ)、15(陸の豊かさ)、17(パートナーシップ)です。



- ③コロナ禍で SDGs の課題がより顕在化しました。

- ④2021年7月は日本の取組みについて発表の年、成果が求められます。

- ⑤豊島区は2014年に“消滅可能性都市”に指定(少子化、人口移動等で将来消滅の可能性がある)。そこから奮起して“本気のまちづくり”を立ち上げた。 SDGs ウエディングケーキモデル  
今は、アート、カルチャーを重視した「SDGs未来都市」に。

- ⑥“三方よし”から“五方よし(売手よし、買手よし、世間よし +地球よし、孫子よし)”へ

- ⑦SDGsいたばしネットワークには、「プロジェクト型と学び型」と“受援力(助けてと言える力)”,それをどのように言語化するか」に期待したい。



### (2)「共生の社会づくりの視点で SDGs『誰も置き去りにしない』を考える」

東京大学生産技術研究所教授 加藤 孝明氏

- ①専門は「地域安全システム学」、自然災害に対する市街地の脆弱性評価。

脆弱性、防災、減災、まちづくりなどが研究のキーワード。

- ②共生を考える時、「人間社会での共生」と「自然環境の中での共生」がある。

- ③下田(モデル)カード。下田市が作成した毎日の健康チェックを行うカード。 →→→

1ヶ月間の健康チェック(朝夕の体温、咳、息苦しさ、喉の痛み、だるさ、

味覚や匂いなど体調変化を毎日記録)するカードで、提示すると特典が得られる。こんなアイデアも重要。



- ④コロナがもたらすプラス効果は? ピンチをチャンスに変える機会ととらえる。

価値観の転換や既成概念の刷新など「壮大な社会実験」の場とも考えられる。

- ⑤安全至上主義、科学・シミュレーション至上主義、全国スタンダード主義、資源を劇的に膨らます「公の資源だけを利用」から脱却し、自助の増強、災害時自立生活圏の構築、安全のおすそ分け、流域治水(流域全体で考える)などが重要となる。

## □6ブロックの活動と目標

<b>1. 中台・常盤台・富士見ブロック</b>	
  	<p>町会を母体とする地域自衛組織や学校防災の在り方について学んでいます。町の防災活動やコロナ禍の今、思うように活動が出来ない状況ですが、この機会に関心のある課題(特にフードロスを手掛かりに食糧や環境問題)について学んでいます。(下島)</p>
定例会	毎月第三水曜日 19 時～ 会場:主に常盤台地域センター
<b>2. 桜川・大谷口・仲町ブロック</b>	
  	<p>平和学習、食品ロス等について学び、地域に「SDGs」を広める活動を行ってきました。その中で、交通が不便だという地域の課題が浮き彫りになり、この課題解消に向け「ボランティア互助輸送」を発足しました。現在PRや活動人材確保を進め、実証実験を開始しています。(林)</p>
定例会	毎月第一土曜日 14 時～ 会場:コンソーシアム向原コミュニティサロン
<b>3. 板橋・仲宿・熊野ブロック</b>	
  	<p>主に災害対策について学んでいます。「防災街歩き(防災散歩)」を行い、地域の防災対策について、体験を通して学んでいます。街歩きの中で色々な方から声を掛けて頂くなど、反響を感じています。今後は定期的に実施していく事、特に要支援者への具体的な対策について検討を進めていきます。(勝沼)</p>
定例会	毎月第四木曜日 19 時～ 会場:ディサービスおむすび
<b>4. 志村・清水・前野ブロック</b>	
  	<p>「おたがいさま」という地域の学びの場の蓄積を活かし、地域の支え合いの仕組みである「助け合いセンター清水」の立上げを進めています。「ささえあい会議清水」と協働を進めるとともに、映画やDVDの鑑賞学習などを通じて、「共生社会の実現」に向けた学習を進めていきます。(土居)</p>
定例会	毎月第三水曜日 18 時 30 分～ 会場:清水児童館、他
<b>5. 成増・赤塚・徳丸ブロック</b>	
  	<p>活動拠点である「まなぼーと成増」とも連携し地域課題を探っています。防災対策について、ハザードマップをもとに、「町の防災散歩」を実施しながら地域の方との交流を広げ防災について学んでいます。地域にある高齢者施設とも関わりながら連携について探っていきます。(三枝)</p>
定例会	毎月第二木曜日 19 時～ 会場:まなぼーと成増
<b>6. 高島平・舟渡・蓮根ブロック</b>	
  	<p>水害を想定した避難所開設の在り方についての検討を重ねています。板橋区危機管理室の協力により説明会や学習会、防災避難訓練を実施しました。特に新河岸地域は2つの河川に挟まれ避難行動が非常に困難です。この地域に特化したプロジェクトを立上げ継続して学習・検討を進めます。(廣瀬)</p>
定例会	毎月第一火曜日 18 時 30 分～ 会場:高島平団地集会場

## □進行中課題プロジェクト紹介(保健・福祉・医療関係)

協働でつくる”新たな福祉”「地域共生社会」の実現に向けた「包括支援・重層的支援体制整備事業」の提案

背景:厚生労働省から「包括支援・重層的支援体制整備事業」が具体的に打ち出された。更に、社会福祉法の改正による新たな取組みが令和3年から開始され「断らない相談支援体制の確立」「地域参加支援」「地域づくりに向けた支援」を板橋区として強化するために協力していく事が重要と感じた。

仮説:「地域共生社会に向けた包括的支援と多様な参加・協業」が SDGsの“誰も置き去りにしない・させない社会”の構築につながる。

アンケート調査により浮き彫りになった事実:(保健・福祉・医療関係61団体の調査、36団体が回答)

- A)分野を越えた共通課題が多い(幅広い年齢層、福祉サービスの使い方、独居、社会参加・・・)
- B)障がい者分野の課題(高齢化、施設とのつながり、介護者の重層化、見守り・・・)
- C)高齢者分野の課題(介護保険サービスの制限やそれ以外の資源の活用、在宅介護の問題)
- D)児童分野の課題(貧困、DV、ヤングケアラー・・・)
- E)生活困窮者分野の課題(住居、就労・・・)
- F)災害対策分野の課題(災害時要支援者、バリアフリー、福祉避難所・・・)



「重層的な支援体制構築のための4つの柱」のイメージ図

- 第一の柱 「包括的相談支援」: 断らない相談  
※コミュニティ・ワーカー(CSW)
- 第二の柱 「社会参加支援」: 活動機会の提供
- 第三の柱 「地域づくり支援」: 地域交流拠点
- 第四の柱 「継続的支援」: 継続的訪問

本提案は冊子にしています。また内容の詳細・今後の展開につきましては、SDGいたばしネットワーク事務局にお問合せ下さい。

## □表現活動プロジェクト

「SDGs かるた」の制作を決定しました。この”かるた”は、SDGsの17目標を身近な事例とイラストで表現したものです。重度の障がいをお持ちの原田華代さんが足と指でパソコンを使って製作しています。



原田華代さん (アートビリティ作家)

1998年「第17回肢体不自由児・者の美術展」  
東京都知事賞受賞

2000年「第19回肢体不自由児・者の美術展」  
厚生大臣賞受賞

地域で暮らし続ける障がいを持つ方のために！ 板橋を拠点に事業展開する2法人の代表です。NPO 法人レイ・(有)Lei

## □地域で進める“みんなの学びの広場・2030”キックオフフォーラム

2021年度(令和3年度)からSDGs目標達成年の2030年を目途に始める地域課題とSDGsを結びつけて学ぶ“みんなの学びの広場・2030”キックオフフォーラムが開催されました。

日時：2021年3月28日(日) 13:30~16:30 場所：成増生涯学習センター

テーマ：「SDGs未来への分岐点」

NHKスペシャル「未来への分岐点 第1回「暴走する地球温暖化”脱炭素”への挑戦」の視聴とシンポジウム

シンポジウム参加：東京大学生産技術研究所教授 加藤孝明氏

NHK大型企画開発センターディレクター 山下健太郎氏

(コーディネータ 生涯学習センター 的野所長)



約1時間の視聴後にシンポジウムが行われました。

加藤教授：防災の町づくりは総合的なアプローチ、意識しないで自然な形で考えること

緩和策と適応策は地球温暖化も防災も同じ、前に進む力が重要

山下氏：日本は関心ある人だけが動くか浮いてしまう。ヨーロッパは若い人の参加が多い

企業は環境対策なしでは、既にビジネスが成り立たない。経済意識が変れば、世の中も変わる

加藤教授：東京駅前の再開発は災害に備えた街づくりを重視している

究極の姿はSDGsと言わなくても当たり前に行っていること。これが理想

山下氏：この放送の視聴者には現役世代が多かった。また各自治体からオファーが多い

SDGs目標12「つくる責任つかう責任」が大切、世界の大企業が環境重視の目標を掲げている

加藤教授：地域の境を越えて連携していく事がこれからは重要となる

荒川下流が守られているのは、上流が被害を受けているから。水域全体で考える必要がある

※会場に参加された皆様からも色々なご意見を頂きました。

## □「すごいぞ！上板橋第二中学校9年生。SDGs授業参加報告」



3月15日(月)晴、板橋区立上板橋第二中学校9年生の卒業前最後の授業「SDGsの発表会」に参加しました。上板橋第二中学校では以前から環境問題などに取組んできました。

ただコロナ禍で休校や学校行事が中止となり、皆で取組める課題を先生方が考え「SDGsを核とした活動」

を展開することになりました。その最後にSDGsいたばしネットワークのメンバー(8名参加)への報告会を

開催して頂きました。9年生3クラス92名は、グループ単位でSDGs17項目からテーマを選び、「SDGs S

TART BOOK」で学んだ知識と、ネットで調査、関係組織や団体・企業へコンタクトなど積極的な調査を行

いました。その結果を、①課題設定 ②情報収集 ③整理・分析・提案④まとめ の4項目に整理し、今回は各

クラス2グループの発表でした。どれも大人では気づかない「何故？ どうして？ なるほど！」が追及され、

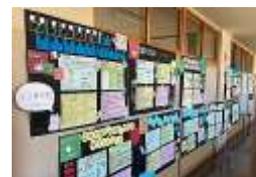
私たちには気づかされる点が多くありました。後半の「10年後、この地域が

どうなっていて欲しいか」の発表では、「環境、景観が良い」「交通の便が良い」

「子育てしやすい」「自然とふれあえる」など、今の大人が子供たちの未来に残

さなければならない多くのことが指摘をされていました。コロナ禍で制限された中学最後の一年間は大変で

したが、こんなにSDGsに前向きな生徒が今は高校一年生と思うと力強く思います。ガンバレ！



## 掲示板 — お知らせ & 会員・ボランティア募集 —



### 「予告」特定非営利活動法人「SDGsいたばしネットワーク」設立記念シンポジウム

NHKスペシャル「未来への分岐点」(3回シリーズ)の視聴と講演、意見交換により、SDGsの現状を知り、これから私たちが取り組むべき道を考える。

#### ①暴走する温暖化“脱炭素”への挑戦(放映時間 59分)

地球温暖化、このままでいくと早ければ2030年に地球の平均気温は臨界点に達する。それを超えると温暖化が更に暴走化する可能性がある。其時、暮らしは、回避策は・・・

#### ②飽食の悪夢 ～水・食料クライシス～(放映時間59分)

日本の1年間の食品廃棄物は、地球上の飢餓問題が改善できる量に相当すると言われる程です。世界の食糧システムを2030年までに改善することが、未来の「破滅」から救う道です。さて・・・

#### ③プラスチック汚染の脅威。大量消費社会の限界(放映時間59分)

プラスチックごみが地球全体に拡散されています。動物の誤飲やナノレベルの粒子となったものが食物連鎖でやがて人体に入り悪影響を及ぼすことに。脅威と改善の処方箋とは・・・

今後、各ブロックで開催を予定します。詳細については、各ブロック責任者にお問合せ下さい。



### SDGsいたばしネットワーク・会員募集

「誰も置き去りにしない」共助(ともに生きる)・共生社会の実現をめざし一緒に活動しませんか？個人・団体を問いません。区外の方もOKです。年会費は1,000円です。

### ボランティア募集

一緒にSDGsいたばしネットワーク事務局の運営をお手伝いしていただませんか。

ご興味のある方、詳しく話を聞きたい方は、下記までお問合せください。

このたび副理事長を拝命しました村松です。

この地に越してきて5年目のひよっ子板橋区民です。ややもすると自宅と区外の職場の往復だけで日々が終わってしまう会社員でもあります。そんな私のような現役世代がどうすれば住んでいる街に目を向けられるか。そんなことを思いながら参加しています。地域が抱える課題を解決し長く住みたいと思える魅力ある街へ、私も微力ながら皆さんと歩んでいきたいと思えます。

村松 円

編集後記：江戸時代の江戸の人口約100万人(世界一の100万都市)。その内庶民は約半数で江戸の面積の14%に住むという超過密住宅事情だったそうです。落語に出てくる裏長屋という集合住宅に住んでいました。長屋は縦長の建物で数戸に区切られ仕切る壁は薄く隣の声や夕飯のにおいもダダ洩れでした。井戸やトイレ、ゴミ捨て場は共有し皆できれいに使っていたそうです。さて現代に戻ると住宅から漏れる音は騒音、においは悪臭、隣近所とのトラブルになりかねません。人は幾多の経験を重ね豊かな生活を手に入れました。でも江戸時代にあった近距離で助け合う心は長距離になった気がします。SDGsいたばしネットワークはいよいよ法人化します。距離感をしなやかに縮めていければと思います。(a)

SDGs  
いたばし  
ネットワーク  
ニュース

第4号

発行者：SDGsいたばしネットワーク代表加藤勉

2021年6月号

発行日：2021年6月1日



「いたばしからSDGs」の歌が聞けます

〒173-0004 板橋区板橋3丁目63-5 (みんなのたすけあいセンターいたばし内)

Tel : 03-5944-1366 Fax : 03-5943-1888 Mail : sdgs-itabashi@mbr.nifty.com